



## ナメクジやカタツムリはなぜぬるぬるするの

### 体をかんそうから守るため

ナメクジやカタツムリは、陸にあがった貝です。水の中から陸へと、すみ場所を広げたの  
 ですから、大変な進化です。しかし、まだまだ、完全には水から縁がきれていません。何よ  
 りも体から、水気がなくならないようにしなくてはなりません。そのために、体からタンパ  
 ク質のぬるぬるした液を出して、体が乾くのを防いでいます。

殻を捨てたナメクジは、体全体が、いつも空気にさらされますので、もっと大変です。ね  
 ばねばの液を出す腺が発達し、背中側の全体は、この液でおおわれています。

### 湿度が65パーセント以下になると休眠する

カタツムリは、湿度が65パーセント以下になると、殻の入り口に膜をはり休眠します。  
 この状態になる前に、休眠に適した場所をさがし、土中3センチメートルほどの深さにもぐ  
 り込んだり、落ち葉やかれえだの下にかくれます。膜は最初は1枚ですが、寒さや乾燥が強  
 くなると、2枚3枚と重ねて寒さや乾燥から身を守ります。湿度が75～80パーセント、  
 温度が10～15度Cぐらいで、からの膜を破って再び活動しはじめます。

(監修・中山 周平)

